



2017年10月4日

各 位

会社名 ミニストップ株式会社
 代表者名 代表取締役社長 藤本 明裕
 (コード番号 9946 東証第一部)
 問合せ先 取締役常務執行役員管理本部長 堀田 昌嗣
 T E L 043-212-6472
 当社の親会社 イオン株式会社
 代表者名 取締役兼代表執行役社長 岡田 元也
 (コード番号 8267 東証第一部)

2018年2月期 第2四半期累計期間業績 業績予想との差異に関するお知らせ

2017年4月12日に公表した2018年2月期の第2四半期累計期間の連結業績につきまして、業績予想との差異が発生いたしました。

記

1. 2018年2月期第2四半期累計期間の業績について

2018年2月期第2四半期累計期間業績 (2017年3月1日～2017年8月31日)

(連結)

(単位：百万円)

	営業総収入	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する四半 期純利益	1株当たり 四半期純利益
前回予想 (A)	107,900	2,100	2,600	900	31円06銭
今回業績 (B)	105,614	1,420	1,935	759	26円22銭
増減額 (B-A)	▲2,285	▲679	▲664	▲140	
増減率	▲2.1%	▲32.3%	▲25.5%	▲15.6%	
(参考) 前期業績	100,408	1,562	2,000	695	24円01銭

2. 2018年第2四半期累計期間業績、業績予想からの差異理由について

第2四半期累計期間の連結業績が業績予想から差異が発生することとなりました。主な理由は、ミニストップ(株)および韓国ミニストップ(株)の売上高の計画差により、営業利益が当初予想を下回る見通しとなったことによります。

ミニストップ(株)につきましては、既存店1店1日あたりの売上高前年同期比を101.5%で計画しましたが、8月の天候不順などが原因でコールドスイーツを中心としたファストフードや夏物商材が不振となり100.1%となりました。ミニストップ(株)の営業利益は19億円の計画に対して16億85百万円となりました。

韓国ミニストップ(株)につきましては、店内加工ファストフードや即食の強化、店舗の大型化などの売上施策を実施いたしましたが、韓国国内のたばこの需要低下、景気低迷、天候不順などが原因で既存店1店1日当たりの売上高前年同期比は連結公表の前提100.1%に対し95.6%となりました。韓国ミニストップ(株)の営業利益は6億76百万円の計画に対して3億42百万円となりました。

以上の結果、第2四半期連結累計期間の営業利益が期首に公表した業績予想を下回ることとなりました。経常利益、親会社株主に帰属する四半期純利益の差異原因は主に営業利益の差異によります。

通期の営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する当期純利益につきましては、ミニストップ(株)では「ファストフードの単品集中販売」をはじめとした販売施策、韓国ミニストップでは新規商品のアイテム数の増加や日本のミニストップからの米飯の技術協力により売上を向上させるとともに、連結各社の経費改善により当初予想を達成できる見通しです。

なお、配当金につきましては、1株当たり中間配当 22.5 円、期末配当 22.5 円（年間合計 45 円）としており、当初の予想から変更しておりません。

（注）業績の予想につきましては、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであります。

実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる結果となる可能性があります。

以 上